

生涯現役を貫く

「六十、七十は鼻たれ小僧。男ざかりは百から百から。わしもこれからこれから。」

田中が好んで使った言葉のとおり、100歳を超えても創作活動や趣味を楽しんでいました。



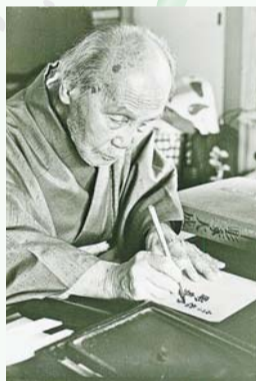
彫刻材

100歳になった田中は、これから作る作品のための彫刻材として30年分制作できる巨木を購入しました。現在、当時購入した木材のうちの1本が飾られています。



アトリエ

家の建設当初、アトリエはなく、彫刻制作は上野桜木町まで通っていました。しかし、上野までの移動が大変なこと、家でも創作をしたいという思いから、アトリエを増築しました。五十鈴老母は、このアトリエで104歳の時に完成させました。



書

田中は、縁側や居間で庭の景色を楽しみながら、のんびりと書を書くことを好んでいました。晩年、107歳の時まで文字を書き、創作への情熱を絶やすことはありませんでした。



文字の研究

中国の古い書体などを研究し、ノートに文字のかたちをメモして残し、書作品の制作の参考にしていました。



旅行

日本芸術院会員に与えられる国鉄のパスポート(国鉄の電車賃が無料になる)を使い、100歳でも旅行を楽しんでいました。旅行中は家族宛てに手紙を書き、いつも家族を大切に思っていました。



田中が愛した地

小平

昭和45年、田中は台東区上野桜木町から小平市学園西町に移り住みます。昭和54年に百7歳で亡くなるまでの約10年間を小平で過ごしました。田中が過ごした小平での暮らしを、家族と一緒に過ごした平櫛館長が紹介します。

大好きな玉川上水

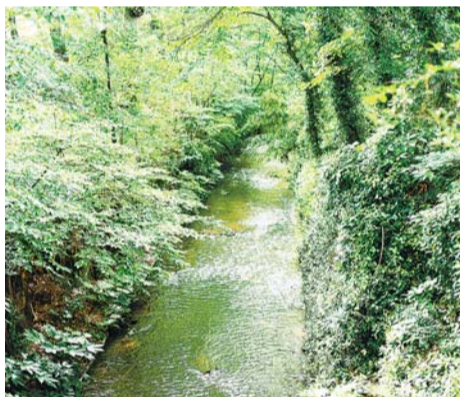


平櫛田中彫刻美術館
館長 平櫛弘子

田中の孫。田中が107歳で亡くなるまで、彫刻制作や身の回りの世話など、生活を支えた。平櫛田中作品の唯一の鑑定者。

鏡獅子制作の合間に、田中は「小川新田(当時の小平の地名)に行こう」と言っただけのころの私や家族を連れて何度も小平の玉川上水を見に行きました。ちょうど鏡獅子の制作を再開した昭和20年代後半のころからです。今思うと、このときから将来小平に住もうと思っていたのかもしれない。

小平に住む



97歳という高齢で、突然小平に住むと言った時は驚きました。体が弱かった私の母(田中の娘)が住みやすい環境を望んでいたことや、家の設計をした建築家、大江宏さんとの出会いがきっかけですが、大好きな玉川上水や、武蔵野の雰囲気がある小平に住みたかったのでいいでしょう。晩年、「小平はいい」とよく言っていて、とても気に入っていた地でした。

梅が見える居間



庭造りで意見をぶつけ合う田中(左)と樂山(右)

上野の家はアトリエ主体の造りに対して、小平の家はゆくり過すために造られています。白梅が好きだった田中は、居間のこたつから梅の木が見えるよう母屋(居間のある建物)の位置を決めました。居間に面した庭を担当したのは、柴又帝釈天を手がけた永井樂山さんです。



居間から見事な梅を見ることができます

「ここにこの花を植えたい」「ここに花を植えたら変だ」時には激しく意見をぶつけ合いながら庭造りは進みまし。田中は百歳近く、樂山は80歳代。お互いのこだわりがぶつかり合います。庭の東側は、私の母がベッドから庭の景色をいつでも見られるよう、椿やあじさい、梅などの鮮やかな花を植えました。庭には田中の思いが詰まっています。

五十鈴老母



田中最後の彫刻作品。モデルは三重県伊勢市の銘菓「赤福」店主。頭部は伊勢で作られ、体は上野桜木町のアトリエと小平の自宅で作り直しました。



一橋学園駅南口から徒歩10分

開館時間 午前10時～午後4時
休館日 火曜日(祝日に当たる場合は、その翌日)
観覧料 一般…300円(220円)、小・中学生…150円(110円)
※カッコ内は、団体20人以上。
※駐車場を利用の方はご相談ください。
問合せ 平櫛田中彫刻美術館
☎042(341)0098

